

口頭試験体験記

試験管のフォロー込みでなんと 20 分で納めました。こいつコミュニケーション下手だ、と思われたかもしれません。3 義務 2 責務もひとつ忘れたし、試験は初めてですかと聞かれてしまったのでかなり素人に映ったかもしれないです

好印象だったのは、成果品チェックをリモートも使いやっていること、事業説明資料の作成にあたり他地域の事例をビジュアルに示すこと、利害関係の説明です。

最も苦しかったのは「クロスチェックもされているのであまり経験がないかもしれませんが、あなたの危険度評価で比較的安全と思っていた箇所が崩壊し、大きな被害が場合、どう対応しますか」と失敗例を聞かれたことです

⇒(言葉に窮し)社外の人も踏まえ毎年現地研修を行っているが、そこで実は危険なのではないかという指摘があった場合、発注者含め関係者と再度協議する

Q:判読のリーダーを担ったということですが、社員は何人ですか

A:15 人です

Q:成果の関係者との調整は、どのような点が課題でどう工夫していますか

A:発注者はもとより、非専門家である地域住民に事業の必要性をわかりやすく表現すること。具体的には過去の災害事例、災害記録のない場合地形・地質条件の類似した他地域の事例を、写真等使ってビジュアルに整理しています

なるほど、関係者とは発注者と地域住民ですね、、とメモ(工事・施工者も言及しておいた方がよかったか、、)

Q:判読評価にあたり、人的資源及び機材資源の分担方法について教えてください。

A:要対策の、急峻なところなどでは各種計測機材は必要になるので航空測量会社と協力しています。

Q:おっと、それは機材資源ですね。人的資源はどう工夫されていますか

A:(しばらく考え)若手には地形のわかりやすいところを分担し、業務の慣れや専門性を高めてもらう、中堅・ベテランは危険度の高いところ、整備が急がれるところを担当します。

Q:危険度評価にも利害関係で説明しづらいことがあるかと思います。その経験とどう対応したかについて述べてください。

A:以前、この流域はすでに対策施設の要望があるから解析の結果も少し危険側に評価を変更してほしいという言葉投げかけられたことがあります。しかし、そこを高評価にしてしまうと、他の地域との評価

のバランスが崩れ事業費の配分にも影響が出る。そこはブレずに客観的な分析結果を伝えるよう努めています

Q:なるほど

Q:一連の経歴で、昔の業務のやり方とこのように手法を変えたという点について述べてください

A: (しばらく考え)以前は決められた流域や林班ごとに評価を与えていたのですが最近では危険要因の分布に応じてオリジナルの区域設定も設けています。土研棒など広域調査ツールも取り入れて、より現地の状況に即し評価してます

Q:危険度評価を行うにあたり、あなたなりにポリシーはありますか

A:現場主義です。最近では AI を用いた自動判読の結果もよく目にするんですけども、分水界や堆積場までひとつの区域にするなど精度が低い事例もまだ目にします。そういったときパラメータの操作だけでなく、地形・地質の成り立ちを踏まえた現地調査を行い、今後の防災に生かすべき情報を取得・分析するように考えていますし、指導していします。

Q:納得顔でメモ

Q:3 義務 2 責務を述べてください

A:信用失墜行為の禁止、守秘義務、名称表示義務、継続研鑽の責務、、、もうひとつ、、すいません度忘れしてしまいました

Q:公益の確保・環境の保全です

A:ありがとうございます。

Q:技術士二次試験は初めてですか

A:3 回目です。既に建設(河川・砂防)と応用理学(地質)を取得しています

Q:では森林土木を受験するにあたり、どのような勉強をしてきたか、あるいは今後どのような勉強が必要だと思いますか

A:森林の対象は広域ですし樹種や林相についても、、

Q:あ、、いやそういう知識ではなくて取り組みを教えてください。

A:日本技術士会や応用生態工学会にも所属していますので、横のつながりで見識を広めようと考えています。

Q:若手に森林土木の内容をどう伝えますか

社内巡検等で他分野の専門家も呼ぶなどして現場で知識と経験知を高める企画を行っています

Q:わかりました。これで試験を終了します